

2019年度 事業計画

テーマ：但馬地域の高齢者を多面的に支える拠点施設をめざして

たじま荘

1 概要

平成31・令和元年度は「中期経営方針～事業団の決意～」の初年度であり、4つの柱をもとに、たじま荘の事業を展開する。

今年度は、次の4つのことに重点的に取り組む。一つ目は、地域の元気を支える取組の展開として「まるこオープンガーデン」、二つ目は、多様なサービスの充実と展開として「ノーリフティングケアの推進」、三つ目は、専門職による口腔ケアの見直し、そして、四つ目は、堅実な運営継続として「人材確保と人材育成」に取り組む。

さらに、昨年の老人健康大学を拡充し、「老人大学」として健康だけでなく出前講座を行う。また、近隣地域に向けて出前講座を行う。

加えて、新たな加算の取得、特養本体と認知症対応型通所介護事業所の事業推進・収支改善に取り組み、施設の安定経営の維持を図る。

2 主要となる取組

(1) 地域の元気を支える取組の展開

① まるこオープンガーデン

農園芸ボランティアを募集し、草刈り、植付け準備等をお願いするとともに、たじま荘の庭園に花や野菜を植えて、季節を感じられる庭づくりを行い、利用者の生きがい・やりがい・楽しみを作る。オープンガーデン、芋煮会を開催し、地域に開かれた施設づくりを行う。

② まるこギャラリーの活用

生け花、絵画展等の開催を行う。

③ 「まるこ元気支えたい」

看護師、管理栄養士、生活相談員、ケアマネ等が講師となり、近隣地域に出前講座を行う。

④ 老人大学開校

昨年実施した老人健康大学を拡充し、健康面だけでなく、栄養、認知症予防、音楽療法、趣味など幅広い講義を行い、近隣住民にも参加してもらう。

(2) 多様なサービスの充実と展開

① ノーリフティングケアの推進

利用者・職員ともに安全に快適なケアを実践するために、ノーリフティングケア（持ち上げない介護）を実践出来る人材の育成と体制を整備

する。重点研修（事務局主催）及び「持ち上げない介護推進プロジェクト」（まちづくり研究所主催）を実施する。

② 口腔ケアの取組

嚥下体操（健口体操）の推進とKTバランスチャート（13項目）による評価を取り入れ、口から食べることに付いて、専門職でアセスメントを行い、誤嚥性肺炎を予防する。口腔衛生管理加算を取得する。

③ 看取り介護の取組

「看取り介護」のたじま荘として、引き続き、リビングウィル、グリーフケア、デスカンファレンス、アンケートを実施し、看取り介護の更なる推進と充実を図る。

④ 認知症ケアの充実

アルゴリズム、ひもときシートを活用して対応が困難な認知症利用者のケアを行うとともに、落ち着ける環境整備に取り組む。認知症対応型通所介護事業所においては、認知機能訓練（4DAS）等、特色ある取り組みを行う。

⑤ 事故・怪我の防止

事故防止検討委員会を毎月開催し、ヒヤリハット、KYT（危険予知トレーニング）を行い、事故防止に努める。

⑥ 個別支援の実践・研究等の推進

事業団主催の「夢を叶えるプロジェクト」発表大会への参加や全事協職員実践報告・実務研究論文に取り組む。

⑦ 手話研修の実施

窓口で応対手話が出来るように手話研修を実施する。

(3) 堅実な運営の継続

① 職員の資格取得の推進

介護福祉士、介護支援専門員の資格取得者を増やす取り組みを行う。

② 人材確保・人材育成の取組

小・中学校に出前授業に出向き、未来の福祉人材の確保に努める。リーダーを対象に研修を実施し、リーダーの育成を行うとともにストレスケアの研修を行い、職員の心のケアを行う。

③ 施設の安定経営の維持

稼働率を維持する取り組みを行う。また、日常継続支援加算の継続取得、口腔衛生管理加算、褥瘡加算、排泄加算の取得に取り組む。

④ リスク管理の取組

交通事故防止、虐待防止、身体拘束廃止に向けた取り組みを強化するとともに、感染症予防に努める。

ことぶき苑

1 概要

平成31・令和元年度は「中期経営方針～事業団の決意～」の初年度であり、4つの柱をもとに、ことぶき苑の事業を展開する。

- ・多様なサービスの充実と展開
- ・地域の元気を支える取組の展開
- ・新たな挑戦
- ・堅実な運営の継続

さらに、収支改善の取組として、養護老人ホームの定員を見直し、安定経営となるように関係機関と調整を行う。

2 主要となる取組

(1) 多様なサービスの充実と展開

① ラウンド・ケア・サービスことぶき（定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業）の充実

平成30年9月に開設する。利用者の方や家族の方が安心して、住みながら暮らし続けるためのサポートをする事業であり、地域の関係機関や事業所にサービスの利点をアピールし、利用者増をめざすとともに受入体制を整備する。

② 介護保険外サービスの継続実施

平成30年4月に開始しており、介護保険でまかないきれない利用者の幅広く多様なニーズに応えられるサービスであることをアピールし、利用促進を行う。

(2) 地域の元気を支える取組の展開

① 「サポート施設」への事業移行

「サポート型施設」事業の終了にともない、より地域包括支援センター等との連携して事業を進める「サポート施設」事業へ移行する。

② 豊岡市支え合い事業（総合事業）の充実

高齢者宅を訪問して、掃除、ゴミ出し、洗濯、配食、安否確認などのサービスを提供し、生活を支える事業を展開している。さらに担当地区を拡げる準備を行う。

(3) 新たな挑戦

ことぶき苑の建物は平成2年に全面改築してから30年近くが経過し、劣化している部分が増えている。計画的に修繕していく。

(4) 堅実な運営の継続

① 養護老人ホームの安定経営

現状で定員割れが生じている。今後、継続して入所に向け各措置期間との積極的な情報交換を行う一方、特定入居者生活介護事業の促進に努める。

② 居宅介護支援事業所の適正運営

サポート事業、支え合い事業を展開する中で要介護認定後の利用契約につなげる。

③ 訪問介護事業所の収支改善

居宅介護支援事業所と連携し、新規利用者の確保に努める。加えて、利用者の状態、ニーズに応じて定期巡回サービスと調整して適切なサービスを提供していく。

④ 認知症対応型通所介護事業所の安定経営

地域利用者と特定施設入居者生活介護利用者との調整を計画的に行い、安定した利用率を維持する。